

イノシシを増やさないために ～エサ場になっている放置竹林対策～

果樹試験場

【研究のねらい】

カンキツ生産地の獣害発生環境を改善するため、一般的にいわれているように放置竹林がイノシシの重要なエサ源となっているかを明らかにします。また、竹林の根絶がイノシシ被害対策に繋がるかを検討します。

【研究の成果】

1. カンキツ生産地域の竹林では、イノシシは4～6月に頻繁に出没し、エサ場として利用していました(図1)。
2. イノシシは地面を掘り起こし、タケノコを食べていました(図2)。掘り起こした穴の周辺に食べ残しや皮が散乱し、また、新鮮な糞が数多くみられました。
3. 除草剤(グリホサートカリウム塩液剤)による竹稈注入は簡便に竹を枯殺でき、イノシシの増殖につながるエサ源を効率的に減らすことができました(図3)。
4. 竹林を根絶することでカンキツ果実の少ない4～6月のイノシシのエサ源を減らし、誕生直後の幼獣の死亡率をあげ、増殖を妨げられると考えられました。

【成果の活用面・留意点】

イノシシは栄養状態がよいと増殖率が高まるため、根本的な被害対策としてエサ源を減らしていくことが重要で、農業登録のある薬剤で竹を枯殺するなど適切に処理することが大切です。

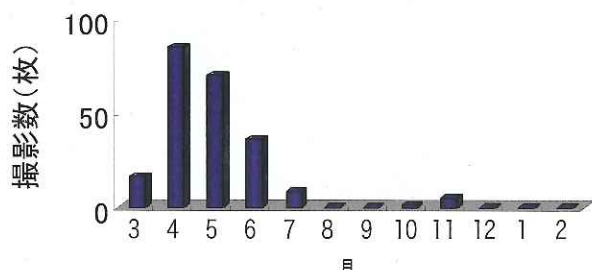


図1 竹林におけるイノシシの月別撮影数

※果樹試験場(有田川町)の放置竹林で、2010年3月～2011年2月に赤外線センサーカメラで撮影



図2 竹林内で土を掘り起こしタケノコを食べるイノシシ

※ 2010年5月2日19時57分に赤外線センサーカメラで撮影

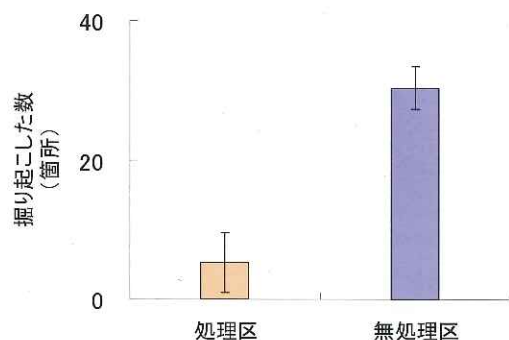


図3 枯殺処理区および無処理区のイノシシ掘り起こし箇所数

※ 処理区: 1区5m×5m四方、6反復

※ 図中の棒線は標準偏差を示す

(問い合わせ先: 0737-52-4320)